

大作用、入門用のアクリル絵具



全72色のカラーバリエーションには、メタル調に輝くイリディッセントグラファイト、シックなミュートッド調のブルージェーやグリーングレーなど、他のリキテックスファミリーにはなかった色があります。

その他リキテックス ファミリーでも人気のパールホワイトや蛍光色6色など、刺激的な色であふれています。



ワンプライスでお買い求めやすい!

使いやすい
ワンタッチキャップ

ベーシックス ジェッソ エコパック

白色地塗り剤 アクリル画の必需品がお手頃価格に!

	250ml	¥748 (税抜価格 ¥680)
	450ml	¥1,188 (税抜価格 ¥1,080)
	1,000ml	¥2,376 (税抜価格 ¥2,160)

※本パンフレットに記載の価格は、2024年7月現在の価格です。
予告なく変更となる場合がございますので、ご了承ください。



安全の証明APマーク
リキテックス ベーシックスにはACMIの認証を受けたAPマークがついています。
※ACMI=画材業界の国際協会。安全性を検証し、認証する機関。

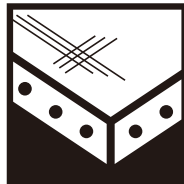
支持体別

いろいろなものに描けるリキテックス ベーシックス。水溶性の絵具なので、水を吸う性質を持つ支持体に描くことができます。(※支持体によって耐久性が異なり、また下処理が必要となるものもありますので、ご注意ください。)



紙

ほとんどの紙質に描くことができます。そのまま直接描けて、発色も鮮やか。



キャンバス

通常はコーティングのしているものに描きます。(生地そのままに描くことも可能。) 油絵用キャンバスを使う場合は、サンドペーパーをかけて、油性の下地を落としてからお使いください。



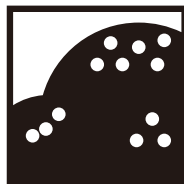
布

綿素材など、吸水性の良いものが最適。新品の布を使う場合は、あらかじめ洗濯をして糊を落としてから描きます。完全乾燥後に当て布をして高温のアイロンをかけておけば洗濯しても落ちません。



木材

そのまま直接描くか、ジェッソやグロスボリマーメディウムなどで目止めをしてから塗ります。ベニヤ板や油分の多い木質に塗ると、色染みが起こることがあるのでご注意ください。



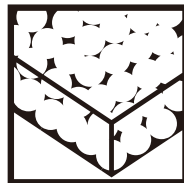
自然石

そのまま直接描くか、ジェッソやグロスボリマーメディウムなどで目止めをしてから塗ります。



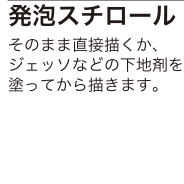
金属

金属は表面がつるつるしていて、そのままでは絵具が乗りにくいので、サンドペーパーをかけてから塗ります。



皮

表面加工のされていない「なめし皮」には、そのまま直接描くことができます。表面加工がされている皮は、サンドペーパーをかけて、ジェッソなどの下地剤を塗ってから描いてください。



発泡スチロール

そのまま直接描くか、ジェッソなどの下地剤を塗ってから描きます。

紙粘土

紙粘土に混ぜてカラー粘土をつくることもできます。または乾燥させた紙粘土の上から塗ることもできます。油粘土には不向きなので、ご使用は避けてください。

ブロック、コンクリート

まず汚れをよく落としてからお使いください。壁面など屋外で使用するものに描く場合は、ジェッソなどの下地剤を2回以上塗ってから描いてください。

アクリル板

アクリル絵具と同一組成なので、時間が経つと一体化します。基本的に絵具の食いつきは良いのですが、透明なアクリル板を利用する場合は透過性が強くなります。



リキテックス Webサイト



リキテックス チャンネル



Instagram
@liquitex.jp



Facebook
Liquitex-Jp



X (旧 Twitter)
@Liquitex_Jp

リキテックス日本総発売元 パニーコルアート株式会社 中目黒事業所
東京都目黒区東山1-4-4 目黒東山ビル TEL:03-6412-7946

No.17901007
240701



リキテックス ベーシックス

LIQUITEX BASICS

72 colors



118_{ml}

¥825
(税抜価格 ¥750)

作品制作者 OZ-尾頭-山口佳祐
『微かに残る境界-remain- 02』

リキテックス ベーシックス

LIQUITEX BASICS



118_{ml}

NEWデザイン

全72色
¥825
(税抜価格 ¥750)

400_{ml}

NEWデザイン

全20色
¥2,200
(税抜価格 ¥2,000)



※2023年7月より日本語版パッケージからグローバル版パッケージに順次変更となります。



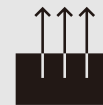
リキテックス ベーシックス は水彩絵具のように水で薄めて描いたり、厚く盛り上げて油彩風に描いたり。絵画やイラストレーションだけでなく、壁画や立体など、幅広い用途に使えます。リキテックス カラー、リキテックスメディウムとの併用もOK!



水溶性



乾くと耐水性



速乾性



耐水性になるまで

LIQUITEX BASICS



微かに残る境界 -remain- 02

Acrylics on Canvas / 400x900mm / 2020

B-151 ピローレッド B-215 トランスベアレント ミキシング ホワイト B-092 蛍光レッド
B-205 トランスベアレント レッド B-214 イリディッセント グラファイト ブラックジェツソ



tone -05

Acrylics on Canvas
400x400mm / 2020

B-204 ローズ ピンク B-209 ライト オリーブ グリーン
B-151 ピローレッド B-210 ターコイズ ブルー
B-017 ビビッド レッド オレンジ B-215 トランスベアレント ミキシング ホワイト
B-207 トランスベアレント イエロー B-092 蛍光レッド
B-211 グリーン グレー B-095 蛍光グリーン
B-208 ライム グリーン B-210 ターコイズ ブルー



tone -06

Acrylics on Canvas
400x400mm / 2020

B-017 ビビッド レッド オレンジ
B-211 グリーン グレー
B-208 ライム グリーン
B-212 ブルーグレー
B-210 ターコイズ ブルー

B-162 ブルシャン ブルー ヒュー
B-215 トランスベアレント ミキシング ホワイト
B-214 イリディッセント グラファイト
B-093 蛍光オレンジ
ブラック ジェツソ



tone -07

Acrylics on Canvas
400x400mm / 2020

B-151 ピローレッド B-215 トランスベアレント ミキシング ホワイト
B-017 ビビッド レッド オレンジ B-092 蛍光レッド
B-208 ライム グリーン B-094 蛍光イエロー
B-036 プリリアント ブルー ブラック ジェツソ



作品制作者
OZ・尾頭・山口佳祐

リキテックスWebサイト
リキテックス パートナー



日本特有の思想や感覚、現代の発想や画法を融合し、万物に秘められた“何か”を追求しながら筆を走らせ続けている画家。幼少の頃から創ることを好み、10代前半から制作活動を始める。2001年からライブペイントを始め、即興性と場の特異性を追求。一方で数々の依頼制作や店舗内外装、個展等も行っている。近年は大絵馬や現代絵図を描き、奉納や文化の継承を進める傍ら、海外のアートフェスティバルへ参加するなど表現は多岐に亘る。

- 2016年 「RONIN-GLOBUS ARTIST IN RESIDENCE PROGRAM」最優秀賞受賞(ニューヨーク)
- 2017年 「MONO OZ-Yamaguchi Keisuke Solo Exhibition」Museo Taller Luis Nishizawa(メキシコ)
- 2019年 大絵馬「令和元年祈願図」を描き、信州善光寺へ奉納(長野)
- 2020年 「星野リゾートxエイベックス CREATORS WALL」入選
- 2023年 「ものくる OZ・尾頭・山口佳祐 個展」Ain Soph Dispatch(愛知)

COLORS CHART 72 colors

ライト ピンク (ライト ポートレートピンク) 不透明 ■ 耐光性 I	ローズ ピンク 不透明 ■ 耐光性 I	ミディアム マゼンタ 半透明 ■ 耐光性 I	キナクリドン マゼンタ 半透明 ■ 耐光性 I	カドミウム レッド ディープ ヒュー 不透明 ■ 耐光性 II	アリザリン クリムソン ヒュー / パーマネント 半透明 ■ 耐光性 I	プライマリー レッド 半透明 ■ 耐光性 I	ピロール レッド 不透明 ■ 耐光性 I	カドミウム レッド ミディアムヒュー 半透明 ■ 耐光性 II	ナフソール クリムソン 半透明 ■ 耐光性 II
トランスベアレント レッド 透明 □ 耐光性 I	カドミウム レッド ライト ヒュー 半透明 ■ 耐光性 I	カドミウム オレンジ ヒュー 半透明 ■ 耐光性 I	ビビッド レッド オレンジ 半透明 ■ 耐光性 I	カドミウム イエロー ディープ ヒュー 半透明 ■ 耐光性 I	カドミウム イエロー ミディアム ヒュー 半透明 ■ 耐光性 I	プライマリー イエロー 半透明 ■ 耐光性 I	トランスベアレント イエロー 透明 □ 耐光性 I	カドミウム イエロー ライト ヒュー 半透明 ■ 耐光性 II	ネーブルス イエロー ヒュー 不透明 ■ 耐光性 I
グリーン グレー 不透明 ■ 耐光性 I	プリリアント イエロー グリーン 半透明 ■ 耐光性 II	ライム グリーン 半透明 ■ 耐光性 I	ライト オリーブ グリーン 半透明 ■ 耐光性 I	ライト グリーン / パーマネント 不透明 ■ 耐光性 I	グリーンディープ/ パーマネント (ディープ グリーン/パーマネント) 半透明 ■ 耐光性 I	フタロシアン グリーン 半透明 ■ 耐光性 I	フォーカス グリーン ヒュー/パーマネント 不透明 ■ 耐光性 I	ブルー グレー 不透明 ■ 耐光性 I	ブライツ アクア グリーン 不透明 ■ 耐光性 I
ターコイズ ブルー 不透明 ■ 耐光性 I	ライト ブルー/ パーマネント (パーマ ネント ライト ブルー) 不透明 ■ 耐光性 I	プリリアント ブルー 不透明 ■ 耐光性 I	セルリアン ブルー ヒュー 不透明 ■ 耐光性 I	ライト ブルー バイオレット 不透明 ■ 耐光性 II	コバルト ブルー ヒュー 不透明 ■ 耐光性 I	プライマリー ブルー 半透明 ■ 耐光性 I	フタロシアン ブルー 不透明 ■ 耐光性 I	ウルトラマリン ブルー 半透明 ■ 耐光性 I	ブルシャン ブルー ヒュー 不透明 ■ 耐光性 II
ディープ バイオレット 不透明 ■ 耐光性 II	プリズム バイオレット 透明 □ 耐光性 II	パープル グレー 不透明 ■ 耐光性 II	ディオキサジン パープル 不透明 ■ 耐光性 II	プリリアント パープル 不透明 ■ 耐光性 II	ロー シェンナ 不透明 ■ 耐光性 I	レッド オキサイド 不透明 ■ 耐光性 I	バート シェンナ 不透明 ■ 耐光性 I	イエロー オキサイド 不透明 ■ 耐光性 I	ブロンズ イエロー 不透明 ■ 耐光性 I
ロー アンバー 不透明 ■ 耐光性 I	バート アンバー 不透明 ■ 耐光性 I	アンブリーチド チタニウム 不透明 ■ 耐光性 I	パーチメント 不透明 ■ 耐光性 I	アイボリー ブラック 不透明 ■ 耐光性 I	マース ブラック 不透明 ■ 耐光性 I	ペイニーズ グレー 不透明 ■ 耐光性 I	ニュートラル グレー 5 不透明 ■ 耐光性 I	チタニウム ホワイト 不透明 ■ 耐光性 I	トランスベアレント ミキシング ホワイト 透明 □ 耐光性 I
イリディッセント ホワイト (パール ホワイト) 半透明 ■ 耐光性 NR	イリディッセント グラファイト 不透明 ■ 耐光性 NR	ブロンズ 不透明 ■ 耐光性 NR	コパー 不透明 ■ 耐光性 NR	ゴールド 半透明 ■ 耐光性 NR	シルバー 不透明 ■ 耐光性 NR	フルーレセント蛍光 ピンク (蛍光ピンク) 透明 □ 耐光性 NR	フルーレセント蛍光 レッド (蛍光レッド) 透明 □ 耐光性 NR	フルーレセント蛍光 オレンジ (蛍光オレンジ) 透明 □ 耐光性 NR	フルーレセント蛍光 イエロー (蛍光イエロー) 透明 □ 耐光性 NR

※印刷物のため、実際の色とは異なる場合がございます。
あらかじめご了承ください。

※2020年6月より、一部の絵具の透明度や耐光性が順次変更となります。本カラーチャートの表記と実際の製品の表記が異なる場合がございますので、ご了承ください。

耐光性 (光に対しての強さを表す記号)
I = 完全不変色。屋外に使用しても褪色しません。
II = 不変色。屋外の使用では褪色する場合があります。
NR = 計測データなし

4 = 400ml ボトル (全 20 色)

使い方 リキテックス ベーシックスは、水溶性のアクリル絵具。扱い方はとても簡単です。



リキテックス ベーシックスはそのまま描くこともできますし、水を混ぜて薄めて描くこともできます。また混色も自由にできるので、好きな色をつくり出すことができます。
※水で薄める場合は、水の割合は絵具の 20%程度までにしてください。それ以上混ぜると、定着力や発色が落ちてしまいます。



筆やパレット等に付いたりリキテックス ベーシックスは、水で洗い落とすことができます。ただし、乾くと耐水性になって水で落ちなくなるので、絵具を付けたまま筆を放置しないように注意！使っていない筆は、必ず水に浸けておいてください。



洋服に付いた場合、すぐにお湯と石鹸で洗えば落ちますが、乾くと落ちなくなります。洋服に絵具を付けないようにご注意ください☆

※2020年6月に発売した新色24色で、本パンフレット掲載の作品を描いていただきました。

イリディッセントグラファイトは個人的にとっても興味のある一色で、今後制作でいろいろ試しながら深みを出せたらと思っています。
ピローレッドやトランスベアレントレッドの美しさと、イリディッセントグラファイトとの相性は抜群で、個人的にはお勧めです。
それぞれ特徴がある全24色なので、一色ずつ試してみても如何でしょうか。

コメント

私は制作でBASICSを使用する機会が多いのですが、新色24色は従来のBASICSに比べて発色の良さと描き心地が非常に滑らかだった点がまず驚きました。地塗り剤ジェツソ系とも相性が良く、とても美しく仕上がります。一般的に臭いが気になる蛍光色ですが、新色の蛍光色系は臭いのストレス無く制作に使用出来ました。トランスベアレントミキシングホワイトと混色すると強発色の淡い色合いを楽しめます。